

コンクリート主任技士試験 演習問題 正解と解説

正解（3）

流動化コンクリートの単位水量が少ないこと、分散作用が経時的に低下すること等により、流動化コンクリートのスランプの経時変化は、通常の化学混和剤を用いた軟練りコンクリートに比べて大きい。加えて、ベースコンクリートのスランプが小さいほど、流動化剤の添加量が多いほど、また、コンクリート温度が高いほどスランプ低下は大きい。この性質を改善するために、スランプロス低減形の流動化剤が市販されているが、銘柄によって品質が異なるため、事前に試験などで確認したうえで使用するとよい。

コンクリート技士試験 演習問題 解答と解説

正解（2）

流動化コンクリートは、同じスランプの通常のコンクリートに比べ、セメントペースト量が少なく、水セメント比が同じでもセメントペースト自体の流動性が大きい。このため、ベースコンクリートとして通常の硬練りコンクリートの配（調）合をそのまま用いると細骨材が不足し、分離を起こしやすくなるので、細骨材率は通常の場合より大きくすることが必要である（流動化後のスランプと同程度の軟練りコンクリートの細骨材率を用いればよい）。